

## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

観点 9 - 1 - 1 : 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

#### 【観点到係る状況】

教育活動の実態を示すデータや資料については、教務委員会（別添資料 2 - 1 - 2 - 3）FD 委員会（別添資料 2 - 1 - 2 - 4）を中心として収集が行われ、事務局において管理・蓄積され、適切に分析を行う体制にある。

学生の成績管理は、事務局で厳格に行われている。実際の授業内容を示す資料として、シラバス、各教員による授業結果報告書が事務局で収集、管理されている。試験答案、レポート等成績の基礎資料、講義記録や講義に使用されたプリント、教材等は、各教員が収集し、蓄積している。

卒業論文及び修士論文については、各教員のもとに5年以上保管することとしている。修士論文のうち、本人と教員の了解が得られたものについては、附属図書館において写しを保管している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

教育活動の実態を示すデータや資料については、教員また大学が収集して蓄積する体制にある。

教務委員会、FD 委員会を中心に適切に分析を行う体制にある。各教員が個別に保管しているデータの蓄積については、全学的に統一された措置が必要である。

観点 9 - 1 - 2 : 学生の意見の聴取(たとえば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。)が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

#### 【観点到係る状況】

FD 委員会を中心として、毎年2回、前期授業終了時と後期授業終了時に、全開講科目に対して授業評価アンケートを実施している。実施率は、平成14年度の51%から上昇し、平成16年度以降は60~65%を維持している。教員の授業力についての諸項目はどれも80%を超えた高い評価が得られており、満足度は84~88%である。FD 委員会では毎年、アンケート項目内容の検討や、実施率向上などについて検討を重ねている(冊子5 - 2 - 1、3 - 2 - 2)。

学生委員会を中心として、2年に1回、「学生生活実態調査」を実施している。調査結果については各委員会が関連項目について分析を行い、報告書にまとめて全教員に配付される(冊子7 - 1 - 3 - 1、7 - 1 - 3 - 2)。

「全学懇談会」が年1回開催され、学長をはじめ教職員と学生の意見交換を行っている。各教員はオフィスアワーを設定しており、学部及び大学院の授業及び研究について、学生から質問や相談を受ける体制にある。また学内には「学生なんでも提言箱」が設けられており、授業や学習環境についても随時意見を伝えることが可能である。

#### 【分析結果とその根拠理由】

授業評価アンケートを継続的に実施し、実施率をさらに向上させ、学生の意見をより正確に把握することに努めている。評価結果については、改善に役立つ資料として、各教員に授業ごとに報告されている。学生生活実

態調査、全学懇談会、オフィスアワー制度、提言箱を通じ、学生の意見聴取や分析を行うことにより、自己点検・評価に適切に反映する体制を整備している。

観点 9 - 1 - 3 : 学外関係者(例えば、卒業(修了)生、就職先等の関係者等が考えられる。)の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

**【観点に係る状況】**

卒業生・修了生アンケートを実施し、その結果報告書を教職員に配付して周知している(冊子 9 - 1 - 3 - 1、9 - 1 - 3 - 2)。教育の状況に関する質問項目は、授業内容について、教育システム・カリキュラムについて、教員について、施設・設備についてである。それぞれに個別項目を設けて、満足度と不満足度を挙げてもらう形式及び自由記述形式から、卒業生の多くの意見を全教職員に周知することができ、在学生の満足度向上のために有効に反映されている。さらに充実させるために、就職先等へのアンケート調査の取組みが、現在準備中である。

**【分析結果とその根拠理由】**

卒業生・修了生アンケートを実施し、教育内容の検討を行うための分析が詳細にされている。結果報告書を教職員に配付して周知し、自己点検・評価に反映する体制にある。多くの学外関係者から幅広い意見が反映されるよう、就職先等へのアンケート調査について検討を行っている。

観点 9 - 1 - 4 : 評価結果がフィードバックされ、教育の質の向上、改善のための取組が行われ、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

**【観点に係る状況】**

学生や学外関係者の意見や評価結果を、教務委員会、FD委員会及び教授会において報告し、改善を求めている。教務委員会、教育課程開発室、FD委員会においては、教育課程の見直しや教育の質の向上、改善のための取組について、継続的に検討が行われている。検討事項については、関連委員会や関連講座に随時、再検討が求められる。平成 18 年度から新しい教育課程組織が改編される際には、評価結果を踏まえて、教育システム・カリキュラム及び授業内容等について改善が加えられた(冊子 5 - 2 - 2)。

授業評価アンケート調査の集計結果については、授業科目担当の教員にフィードバックしている。同時に学務情報システムにおいて、少人数の授業科目(学部：2名以下)を除いて閲覧可能となっており、教員相互の改善に向けての資料となっている(資料 9 - 1 - 4)。

**【分析結果とその根拠理由】**

評価結果は、教務委員会、FD委員会、教授会において報告され、各教員にフィードバックされ、教育の質の向上と授業改善に向けての取組が行われている。教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策については、教務委員会において検討されている。

## 資料9 - 1 - 4 学務情報システムの概要

## 教務課関係

## 1. 履修管理

(履修状況参照)

現在までの履修科目の登録状況が曜日別に表示され、履修登録期間中には、該当学期の履修登録をシラバスを参照しながら画面入力・確認できます。

## 2. 成績管理

(個人成績参照)及び(単位修得状況参照)

現在までの履修科目の成績・登録状況と単位修得状況をリアルタイムに確認することができます。

## 3. シラバス

(シラバス参照)

履修計画の作成。履修登録に際して、該当する科目のシラバスを検索することができます。履修登録期間には、登録画面から参照できます。なお、シラバスは年度分を一括して掲載していますが、年度途中に掲載内容が変更されることがありますので、受講前に再確認してください。

## 4. 授業評価アンケート

(アンケート集計結果参照)

過去に履修登録した授業科目の授業評価アンケートの集計結果を参照することができます。

## 就職支援室関係

## 1. 就職情報の検索ができます。

## ・企業情報

企業名、業種、事業内容、所在地、電話番号等

## ・求人情報

企業名、業種、所在地、連絡先、採用予定数、勤務地域等

## 2. 進路を登録します。

## ・進路希望入力

希望企業名、希望業種、希望職種、希望勤務地等

## ・就職活動入力

就職活動先、応募方法、結果、決定企業等

【出典：ホームページ「教職員の方へ - 学務情報システム (PRIVATE)」】

観点9 - 1 - 5： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。

## 【観点到に係る状況】

授業評価アンケート調査の集計結果については、授業科目担当の教員にフィードバックされる(冊子5 - 2 - 1、3 - 2 - 2)。教員は、前年度のアンケート結果を翌年度の授業科目のシラバスに反映させて、授業内容や教材を改善している。

平成16年度FD委員会では、評価結果をより早く授業改善に反映させることを目的とする「中間授業評価アンケート」の開発を行い、平成17年度前期に試行実施した。少数の実施ではあったが、実施後の教員アンケートによると、教材や教授技術の改善に効果が認められている。

FD委員会では毎年、公開授業研究を実施している。教員たちが学生を交えて、対象となった授業のあり方や問題点について意見交換される。意見交換による学生からの評価は、今後の改善に向けて個々の教員に大いに役立てられている。

## 【分析結果とその根拠理由】

教員は、授業評価アンケートの評価に基づいて、教育方法等の質の向上を図る体制にある。具体的には、シラバスにおいて、翌年度の授業計画や教材に改善が見られる。中間授業評価アンケート、公開授業研究においても、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。

観点 9 - 2 - 1 : ファカルティ・ディベロップメントについて、学生や教職員のニーズが反映されており、組織として適切な方法で実施されているか。

## 【観点到係る状況】

FD 委員会において、各年度の FD 事業に関する実施計画を立て、授業評価アンケート、講演会、授業検討会等を実施している。その実施結果は、FD 事業報告書、授業評価アンケート報告書としてまとめ、教職員に配布するとともに図書館において学生の閲覧が可能となっている（冊子 5 - 2 - 1、3 - 2 - 2）。また、講演会、授業検討会の実施にあたっては、メールやポスター、チラシなどで教職員や学部学生、大学院生に参加を呼びかけている。

FD 講演会、授業検討会については、終了後のアンケート調査により把握し、FD 委員会で学生や教職員のニーズを反映している（別添資料 9 - 2 - 1）。

## 【分析結果とその根拠理由】

全学的に学生による授業評価を実施し、その結果を授業を担当する各教員に知らせ、多くの教員が改善に取り組んでいる。

本観点到係る全学的な取組は概ね良好といえる。しかし、一部の授業に関しては授業評価を実施していない授業があり、その原因をさぐり改善をする必要がある。

観点 9 - 2 - 2 : ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

## 【観点到係る状況】

授業評価アンケートの集計結果を授業担当者にプリントで知らせ、授業改善の参考資料に活用するよう促している。また、公開授業研究も行い意見交換をしていることは、個々の教員の授業改善に役立っている。

学生による授業評価アンケートについては、さらに項目の見直しをして改善を行っている。

## 【分析結果とその根拠理由】

FD 事業全体が大学教育の質的向上や授業改善に結び付いているかどうかという点からの取り組みが今後なされる必要がある。

観点 9 - 2 - 3 : 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切になされているか。

【観点に係る状況】

教育支援者として、教務課職員が授業評価アンケートの集計結果を各授業担当者に知らせ、学生には履修した授業科目のアンケート結果をホームページで見ることができるようにしている。

教育補助者として大学院生を TA に採用し、実験・実習などの授業の充実に努めている(資料 3 - 4 - 1 - C)。

【分析結果とその根拠理由】

教務課職員は、個々に成績不振の学生や授業評価アンケートで顕著な授業について把握しているが、組織的に研修が行われているわけではない。TA についても同様に資質向上のための研修が必要である。

F D 委員会の活動と職員との連携がより一層できるような体制を作る必要がある。

( 2 ) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

教育活動の実態を示すデータや資料については、教務委員会、FD 委員会を中心として収集が行われ、事務局において管理、蓄積され、適切に分析を行う体制にある。

FD 委員会を中心として、毎年 2 回、前期授業終了時と後期授業終了時に、全開講科目に対して授業評価アンケートを実施している。評価結果は、教務委員会、FD 委員会、教授会において報告され、各教員にフィードバックされ、教育の質の向上と授業改善に向けての取組が行われている。また、学生委員会を中心として、2 年に 1 回「学生生活実態調査」を実施し、調査結果については各委員会が関連項目について分析を行い、報告書にまとめて全教員に配付される。

「全学懇談会」が年 1 回開催され、学長をはじめ教職員と学生の意見交換を行っている。各教員はオフィスアワーを設定しており、学部及び大学院の授業及び研究について、学生から質問や相談を受ける体制にある。また学内には「学生なんでも提言箱」が設けられており、授業や学習環境についても随時意見を伝えることが可能である。

【改善を要する点】

教育活動の実態を示すデータや資料について各教員が保管しているものは、全学的に統一された措置が必要である。

多くの学外関係者からの幅広い意見が反映されるよう、卒業生や終了生の意見に加えて就職先等へのアンケート調査について検討を行い、実施することが必要である。

教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組をできるだけ速やかにかつ適切にすすめることも必要である。

### (3) 基準 9 の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータや資料については、教員また大学が収集して蓄積する体制にある。また、教務委員会、FD 委員会を中心に適切に分析を行う体制にある。各教員が保管しているデータの蓄積については、全学的に統一された措置が必要である。

学生の意見の聴取については、FD 委員会を中心として、毎年 2 回、前期授業終了時と後期授業終了時に、全開講科目に対して授業評価アンケートを実施しており、教員の授業力についての満足度は 84～88% である。FD 委員会では毎年、アンケート項目内容の検討や、実施率向上などについて検討を重ねている。

学生委員会を中心として、2 年に 1 回、「学生生活実態調査」を実施している。調査結果については各委員会が関連項目について分析を行い、報告書にまとめて全教員に配付される。また、「全学懇談会」が年 1 回開催され、学長をはじめ教職員と学生の意見交換を行っている。各教員はオフィスアワーを設定しており、学部及び大学院の授業及び研究について、学生から質問や相談を受ける体制にある。また学内には「学生なんでも提言箱」が設けられており、授業や学習環境についても随時意見を伝えることが可能である。

学外者の意見の聴取については、いまのところ卒業生および修了生からのみにとどまっているが、今後は広く就職先や教育実習先など多くの意見を求める必要がある。

学生等による評価結果は、教務委員会、FD 委員会、教授会において報告され、各教員にフィードバックされ、教育の質の向上と授業改善に向けての取組が行われている。教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策については、教務委員会において検討されている。

教育支援者として、教務課職員が授業評価アンケート結果を集計し、各授業担当者に知らせ、学生には履修した授業科目のアンケート結果をホームページで見ることができるようになっている。また、教育補助者として大学院生を TA に採用してきたが、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組をできるだけ速やかにすすめることが必要である。